

きになる梨情報



第11号 平成15年6月5日

土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

ナシの生育と今後の管理

今年の土浦管内のナシの開花は、平年並の4月23日でした。その後5月中下旬に低温日照不足がありナシの生育はやや遅れ気味となっているようです。表1を参考に早期摘果に努め、大玉生産を目指しましょう。

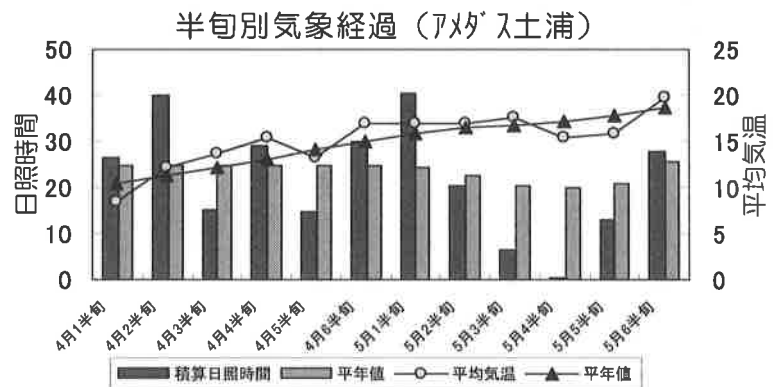


表1. 幸水肥大平年値 (旧茨城園試)

(単位: mm)

満開後日数	40	50	60	70	80	90	100	110	120
平均横径	27.9	32.7	36.4	41.7	50.9	61.4	73.1	81.4	88.0
1日当り肥大量	0.66	0.48	0.37	0.53	0.92	1.05	1.17	0.82	0.66

*最終的にはほぼ2Lサイズの果実となる

病害虫の発生と防除

◎黒星病

園によって発生に大分差があるようです。全体的には平年より多めの発生となっています。発生が多い園では、発病芽・葉・果を早めに取り除き、防除を徹底しましょう。薬剤散布に当たっては、散布量を10a当たり300リットルとし、縦、横散布すると良いでしょう。特に発生が止まらないような園では、スコア水和剤やマネーシDFなどのEBI剤にパルノックスフロアブルを加用して散布して下さい。

◎カメムシ類

5月中旬頃から八郷町や千代田町の一部などで発生が見られ、産卵や果実被害も見られました。例年6月上旬にチャバネアオカメムシの飛来が多くなりますが、6/3土浦合庁の窓にも46頭の飛来が確認されたので、梨園への進入も予想されます。



また、病害虫防除所の調査では、チャバネアオカメムシの越冬量は平年より多く、予察灯への飛来も早いことから平年よりやや多い発生と予想しています。十分注意し、多い園では薬剤散布を行いましょう。

農業は安全使用基準を守って適正に使いましょう

きになる梨情報



第12号 平成15年6月23日 土浦地域農業改良普及センター発行
Tel: 029-822-8511

今年のナシの生育は順調

今年のナシの生育は、5月中下旬に日照不足、低温があったものの、ほとんど影響は見られず、現在のところ順調に生育しています。最終着果量に早めに摘果して大玉生産を目指しましょう。

生育調査結果（調査日6月21日）

地点 品種	千代田				八郷			
	満開日	満開後 日数	横径	平年比	満開日	満開後 日数	横径	平年比
幸水	4/22	60日	37.8mm	100%	4/23	59日	40.5mm	107%
豊水	4/20	62日	39.1mm	111%	4/19	63日	36.4mm	98%
雨よけ幸水	—	—	—	—	4/3	79日	58.7mm	—

(単位:mm)

ナシ幸水の幼果期の大きさと収穫期の大きさの関係
左の表を参考に摘果を進めてください。摘果用のリングを作ってみても良いでしょう。

サイズ	3L	2L	L	M	S	2S
横径	91.2	87.2	84.0	81.5	79.5	77.7
満開後日数	60	38.4	36.5	35.1	34.0	33.1
	70	44.6	42.3	40.4	39.0	37.9
	80	53.9	50.9	48.5	46.6	45.1
	90	64.8	61.4	58.7	56.5	54.8
	100	75.4	72.1	69.5	67.5	65.9
	110	84.1	81.0	78.5	76.6	75.0

黒星病、カメムシ類注意、薬剤散布は収穫前日数を守って散布

黒星病の発生がやや多いようです。雨の合間をねらって、丁寧に（10a当たり300リットル）散布しましょう。

カメムシ類も6月3日、13日に飛来が多く見られました。多目的防災網のない園などでは、飛び込みに十分注意し、発生を認めたら、朝早くカメムシの動きが鈍いうちに薬剤散布を行うようにしましょう。

なお、ジベレリン処理を行った園では、収穫期が早まるため薬剤の使用時期（収穫前日数）に十分注意しましょう。（スプラサイド（45日前まで）や、スミチオン（21日前まで）、ベルコート（14日前まで）などは要注意）

農業は安全使用基準を守って適正に使いましょう

きになる梨情報



第13号 平成15年8月7日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

いよいよナシの出荷始まる

長い梅雨が明け、やっと暑い日が続くようになり、各選果場でもいよいよ幸水の出荷が始まりました。現在のところ、梅雨が長引いた影響でやや小玉、やや遅れ気味の傾向となっています。

色、熟度の揃ったナシを出荷しよう

茨城県産ナシは、色揃えが悪いと言われています。出荷に当たっては、選果場で行う目揃会の結果を十分に活かし、色や形の揃いの良いナシを出荷するように心がけましょう。選果場に出荷される各生産者の色揃えも参考に修正をして行くことで、産地としてのイメージアップを図りましょう。

ジベレリン処理果は、糖度のばらつきが多い傾向にあります（昨年非破壊糖度計による調査を実施した結果；図参照）。特に熟度を揃え、未熟果が混入しないようにしましょう。

薬剤散布は収穫前日数を守って散布

これから暑くなるとハダニ類の発生が多くなります。毎年発生する場所などをよく観察して、見つけたら早めに防除しましょう。農薬散布は、収穫の合間に行うこととなりますが、収穫前日数に十分注意して散布しましょう。

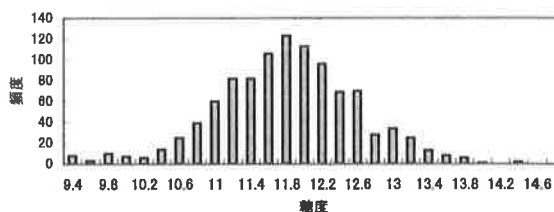
収穫前日まで使用できる主な農薬

ハダニ類対象薬剤	
コロマイト水和剤	2000倍
マイトコーネフロアブル	1,000~1,500倍

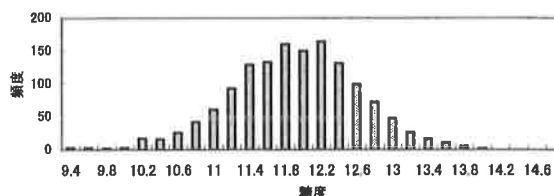
シンクイムシ類・カメムシ類対象薬剤	
スカウトフロアブル	2000倍(カメムシは1500倍)
ロディー水和剤	1,000~1,500倍
アグロスリン水和剤	1,000~2000倍

8月4日開催の県目揃会の
熟度基準
地色 2.5~3

ジベ幸水糖度別頻度分布
(1,030個体)



露地幸水糖度別頻度分布
(1,410個体)



農薬は安全使用基準を守って適正に使いましょう

きになる梨情報



第14号 平成15年9月2日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

豊水にミツ症多発、選果の徹底を

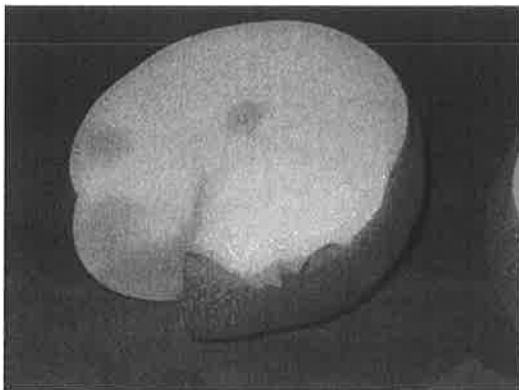
豊水の出荷が始まりましたが、今年はミツ症が平年より多く見られます。やや青めの収穫と徹底した選果でミツ症果の混入を回避しましょう。

発生状況（今年の特徴）

今年は梅雨が長く、低温・日照不足で経過したことからミツ症の発生が懸念されていました。8月末からいくつかの選果場で豊水の出荷が始まりましたが、ミツ症果の発生は多いところでは3割にも達する状況です。

今年の特徴は、ミツ症状が表皮の近くだけでなく果肉内部にも見られ、外観上見分けられないものがあることです。また、赤めの梨では「すいり」症状を呈するものも多く、果肉先熟の傾向にあります。

園によって発生はやや異なりますが、赤めでは殆どがミツ症、適熟でもミツ症になる梨があります。青めではミツ症が少ない傾向にあります。



対策・・・やや青めの収穫と選果の徹底を

果実の収穫を適熟（今年配布された選果基準表の3～4）で行うと、ミツ症が混入するので、例年よりやや青め（同2.5～3）を目安に収穫しましょう。

怪しいと思う果実や、例年ミツ症が多く発生する園や樹は特に注意し、切って確認しながら収穫作業を進めましょう。

満開後145日（4月20日を満開日とすると9月12日）以降は特に発生が多くなりやすいので注意しましょう。収穫盛りは平年より5日程度早まりそうです。

農薬は安全使用基準を守って適正に使いましょう

きになる梨情報



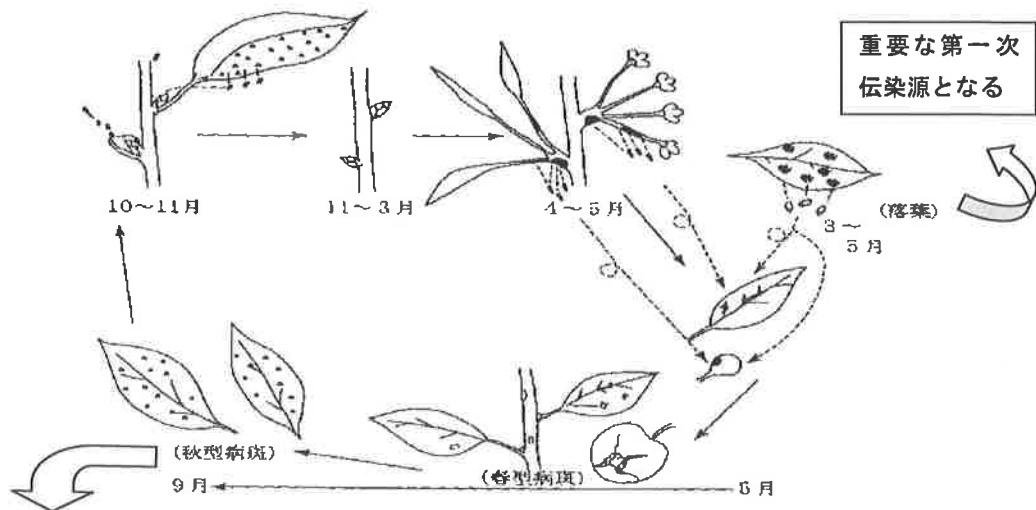
第15号 平成15年10月8日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

黒星病の秋季防除

今年は、梅雨が長引いた影響で、黒星病の果実発病が多く見られました。また、9月下旬には低温で雨の日が多かったことから、秋型病斑の発生の多いほ場が見られています。今年特に発生の多かった園では、落葉処理や秋季防除を徹底して来年に備えましょう。

黒星病菌の生活史



葉裏に、うっすらと墨を流したような病斑を点々と生じるのが秋型病斑で、ここから胞子（分生子）が雨に流されて枝を伝わり芽の鱗片に感染し、翌年の芽基部病斑となる。

また、秋型病斑が発生した葉は、越冬後、落葉上に子のう胞子を形成して3月下旬ころから降雨のあるたびに胞子を飛散する。

この子のう胞子は、最近の実証試験結果から芽基部病斑より重要な第一次伝染源とされている。

対策（特に発生の多い園）

落葉処理（集めて土中に埋めるなど処分する）を徹底する。

秋季防除は出来るだけ丁寧に、枝先まで十分かかるように散布する。散布回数は3回、最終散布は落葉前の10月下旬から11月上旬を目安とする（薬剤は防除暦に準じる）。また、最終の薬剤散布の際にスプレースチッカーなどの展着剤を加用すると良い。

農薬は安全使用基準を守って適正に使いましょう

きになる梨情報



第16号 平成16年4月21日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

< 梨の開花状況と今後の管理 >

平成16年の管内の梨の開花状況について

普及センター管内の今年の梨の満開日は、豊水4月15日、幸水4月17日頃でした。これは平年に比べ7日程度早い開花でした。

また、県西地方の梨の開花も県南地方に比べ2~3日程度早かったようです。

着果状況について

受粉時期は低温の日が1日ありましたが、全体的に気温の高い日が続きました。良質花粉で丁寧に人工受粉した園はうまく着果できたと思われま

病害虫防除について

生育が平年に比べ7日程度進んでいることから、病害虫防除が遅れないように注意しましょう。

今年は、棚に結束した長果枝の先端近くの果そう基部に黒星病が見られます。発生した果そうは基部ごと取り除き、園外に持ち出す等して下さい。

また、アブラムシやシンクイムシが一部のナシ園で既に見られています。



晩霜対策について

受粉期まで、好天が続き今のところ順調に生育しています。しかし幼果期も低温(-1.7℃)に弱く大きな被害を受けることがあります。過去を振り返ってみると5月連休中にも凍霜害に遭ったこともありました。

気象情報には十分注意し、燃烧資材等を用意しておきましょう。気象台が発表する最低温度と自分の園の温度が何度くらいの差があるのかを予め知っておくと良いでしょう。

また、一般的には、午後6時に8℃、午後9時に4℃になると危険であると言われて

茨城農業改革!! 適期に適正な管理で品質を向上しよう。

きになる梨情報



第17号 平成16年6月9日 土浦地域農業改良普及センター発行
Tel: 029-822-8511

< 梨の肥大状況 >

		幸水の果実肥大(岩間町、園研)									
品種名	年	30日	40日	50日	60日	70日	80日	90日	100日	110日	120日
幸水 横径 (ミリ)	16年	24.1	28.8								
	15年	25.5	32.2	38.0	41.9	47.9	57.6	67.5	77.4	86.7	92.4
	平年	23.6	29.9	35.1	39.9	45.9	55.5	66.7	78.4	87.8	94.9
	平年比	102	96								

- ・園芸研究所(岩間町)の幸水の肥大状況は、満開後40日現在28.8mm(平年比96)である。
- ・管内の幸水調査園の満開後40日現在の果実横径は、29.0mm(平年比101)で、ほぼ平年並みの肥大状況である。
- ・着果状況は、全体的に少ない傾向にありますが、園内での果実肥大のばらつきが大きいようです。今後は、M以下の小玉果は、幸水摘果基準を参考に摘果する。

< 新梢管理 >

- ・新梢誘引は、えき花芽着生に効果が高く、また、徒長的な枝を誘引することで新梢の伸長を抑え果実肥大を促進する。新梢誘引の時期は、新梢の停止直前(6月下旬)がよい。
- ・予備枝は先端から発生した1~2本の新梢だけを残し、その他の新梢は摘心する。
- ・側枝や長果枝基部から発生した新梢で予備枝として利用できないものは摘心する。

< 農薬の適正使用 >

- ・梨の生育が7日程度早まっていること、さらにジベレリン処理し収穫が早まった場合、8月初旬に出荷されることもあると思われるので、農薬散布を行う場合、使用基準(収穫前日数)には十分注意する。
 使用例 スプラサイド水和剤(収穫45日前まで)は6月15日が限度
 パルノックスフロアブル(収穫45日前まで)は6月15日が限度
- ・農薬は、使用前にラベルをよく読み、使用基準(収穫前日数や使用回数)を厳守して使用する。

みんなで進めよう

茨城農業改革

茨城農業改革!! 適期に適正な管理で品質を向上しよう。

きになる梨情報



第18号 平成16年7月14日 土浦地域農業改良普及センター発行
Tel: 029-822-8511

<果樹の干ばつ対策>

6月中旬から降水量が少なく、空梅雨で推移しました。特に7月に入ってから、高温乾燥状態が続いています。高品質なナシを生産するために積極的な管理を！！

1. かん水は、干ばつの影響が現れてから行ったのでは遅い。晴天が1週間くらい続いたら行い、以後は5～6日間隔で20～30mmを目安にかん水を行う。
(10a当たり20000ℓかん水すると20mmとなる)
樹冠下への局部かん水の場合は、浅いかん水溝を掘って、1樹当たり200～300ℓを目安に行う。

表一4：幸水のかん水効果(平成14年調査)

	果実たて径	果実よこ径	果重	階級	単価
かん水区	72.0mm	88.9mm	320g	2L	325円/kg
慣行区	69.5mm	84.9mm	298g	L	301円/kg

2. 樹冠回りを中心に草刈りや敷きわらのマルチを行い、土壤水分の保持に努める。



3. 草生園は、刈り取りを励行して、果樹との養分競合を防ぐことに努める。ただし、土壤乾燥防止のため数センチ残して刈るようにする。草生園のかん水は、清耕園や敷きわら園より量を多くする必要がある。

みんなで進めよう
茨城農業改革

茨城農業改革！！ 適期に適正な管理で品質を向上しよう。

きになる梨情報



第20号 平成18年6月7日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8511

○カメムシ類の発生に注意○

カメムシ類の発生が多くなっています。発生状況に十分注意して、発生を認めたら防除しましょう。

1 発生状況

- ◆チャバネアオカメムシの越冬量は、例年に比べ非常に多い状況で過去10年中最も多い。
- ◆園芸研究所内の誘殺灯（水銀灯）の誘殺数は、5月第3半旬（5月11～15日）から増加しており、管内各地のナシ園でも同時期ころから発生が多くなっています。

2 防除対策

- ◆ナシ園内でカメムシ類の発生を確認したら、収穫前日数に注意して、下記の表を参考に薬剤による防除を行う。
- ◆薬剤防除は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。できれば広域一斉防除が望ましい。
- ◆薬剤を散布する場合は、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行う。

3 防除薬剤と注意事項（平成18年5月25日現在）

系統	薬剤名	希釈倍率	収穫前日数－ 本剤の使用回 数	有効成分－有効成 分の総使用回数
有機リン	エルサン水和剤 40	800～1,000 倍	30-6	PAP-6
合成 ピレスロイド	スカウトフロアブル	1,500 倍	前日-5	トラロトリン-5
	ロディー水和剤	1,000 倍	前日-2	フェンプロパトリン-2
ネオニコチノ イド	アクトラ顆粒水溶剤	2,000 倍	前日-3	チアトキサム-3
	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	前日-3	ジノテフラン-3
	アルハリン顆粒水溶剤			
有機ケイ素	MR.ジョーカー水和剤	2,000 倍	14-2	シラフルオフェン-2

◆各薬剤とも直接虫にかかれば効果は高いが、残効期間は合成ピレスロイド系、有機ケイ素系、ネオニコチノイド系薬剤で5～10日程度、有機リン系薬剤で2～3日程度。

また、ネオニコチノイド系薬剤は、忌避効果が高い。

◆合成ピレスロイド系はカメムシ類に対して効果は高いが、天敵類に対する影響も大きく、ハダニ類、カガリムシ類の多発生を招く恐れがあるので注意する。

○農薬使用者は農薬の散布前にはラベルを必ず見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数を確認して使用して下さい。

○農薬散布にあたっては、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して下さい。

みんなで進めよう
茨城農業改革

茨城農業改革！！ 適期に適正な管理で品質を向上しよう。